

令和元年度 第2回収蔵文書の紹介展

築港 130 周年

— 広島港のあゆみ

入場無料



開催期間 あ 令和元年 10月7日(月) ~ 12月27日(金)

広島県知事せんださだあき千田貞暁の主導によって明治22年(1889)に竣工した宇品港うしな[昭和7年(1932)に広島港と改称]は、今年築港130周年を迎えました。本展はこれを記念して、広島県立文書館が所蔵する広島港関係の資料を紹介し、築港以来の広島港のあゆみを振り返ります。

広島県立文書館

I うしな 宇品築港と軍用港の整備

明治時代初期、広島湾岸には、太田川から運ばれた大量の土砂が堆積し、遠浅の海が広がっていた。そのため、大型船が直接着岸することができず、旅客や物資の輸送に不便をきたしていた。広島県では、明治11年(1878)から、土族授産の資金を活用して、宇品築港と皆実新開沖の干拓を計画した。その実現に尽力したのが、明治13年に県令に就任した千田貞暁である。

明治14年にオランダ人技師ムルデルによって策定された工事計画は、巨額の資金を必要としたが、愛知県人の服部長七が人造石を用いた工法を提案し、経費削減の見通しが立った。また、干拓によって漁場を失う漁業関係者らの反対運動も、県令自らの説得によって解決し、明治17年9月に工事に着手した。その後も、明治19年9月の暴風雨による大規模な堤防決壊や、資材・賃金の高騰による資金難等で工事は難航を極めたが、明治22年11月ようやく竣工した。

明治27年に勃発した日清戦争以降、宇品港は陸軍の輸送拠点として整備された。周辺には陸軍の関係施設が建設され、広島駅との間には鉄道が敷設された。

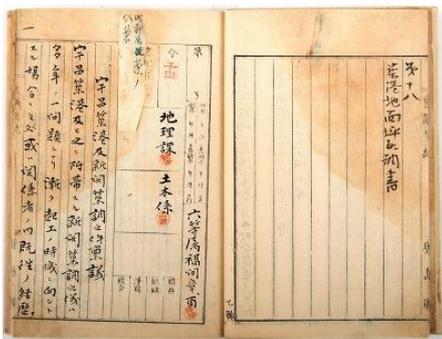
1 宇品築港及び新開築調に関する文書 (広島県) 地理課土木係ほか 明治17~23年 (1884~90) (広島県立図書館移管文書200811-1~6)

宇品への築港と、これに付帯する新開の築調工事に関する広島県の行政文書6冊で、築港の経緯を詳しく知ることができる。内訳は次の通り。

- (1) 「宇品築港及新開築調一件(五冊ノ内第壹)」明治17年 地理課土木係
- (2) 「宇品港一件(広島区関係ノ分 五冊ノ内第五)」土木課
- (3) 「宇品築港及新開築調二関スル往復留(五冊ノ内第三)」地理課土木係
- (4) 「宇品築港寄附金受払帳(第四課於テ取扱)」明治17年6月 築港取調委員
- (5) 「宇品築港及新開築調」
- (6) ① 「宇品築港一件」明治17年6月~
② 「宇品湾築港費寄附人名録 第百廿六号」

宇品築港及新開築調之件稟議

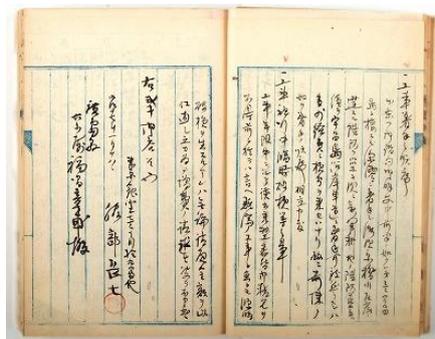
明治17年(1884) 2月 [上記(1)所収]



宇品築港工事を施行する目処が立った明治17年2月に、従来の経緯をまとめて関係者に示す文書を作成した起案で、千田県令が決裁している。

服部長七上申書

明治17年(1884) 1月18日 [(5)所収]



服部長七が、宇品築港工事に関する経費や工期・順序等について、広島県からの諮問に回答した上申書。

宇品築港寄附金受払帳

明治17年(1884) 6月~ [(4)]

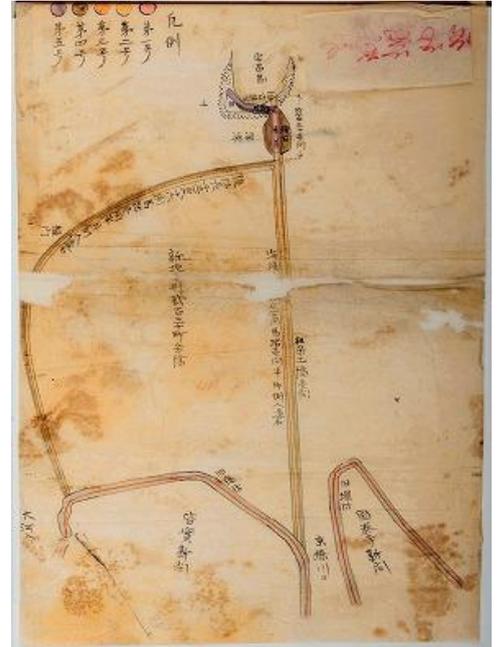


宇品築港工事に係る寄附金等の収入や支出の状況を記載した帳簿。

2 宇品築港計画の図面 [「宇品築港及新開築調一件」〔資料1(1)〕所収]

宇品築港計画は、(1)京橋川左岸(皆実新開の西南隅)から南に延伸して宇品島(現在の元宇品町)に接合する堤防(本堤)を築く、(2)宇品島の北東に大型船が停泊できる棧橋を築く、(3)①宇品島と本堤が接合する部分からその棧橋に向かって海岸線沿いに車道を築く、②本堤に沿って広島市街に通じる車道を築く、(4)本堤の適当な地点で東に分岐し、途中で北に転回させて皆実新開の東南に接合する堤防を築き、その内側を干拓して新開地を作る、という壮大なものであった。

この図面は、築港工事を請け負った服部長七が広島県に提出した目論見帖(計画書)に添付されていたもので、凡例の第1号から第5号の順に工事を進める計画であった。なお、第5号工区の宇品島の棧橋築造と車道工事〔上記(2)と(3)の①〕は、その後の計画変更により実施されなかった。



3 千田貞暁肖像写真 [『千田知事と広島港』広島県 昭和15年(1940) 所収]



千田貞暁(1836~1908)はもと薩摩藩士で、文久3年(1863)の薩英戦争で初陣、慶応4年(明治元年・1868)の戊辰戦争に従軍した。明治維新後は東京府の典事、参事、大書記官を務め、明治13年に広島県令(明治19年から知事と改称)に就任。宇品築港をはじめ、広島県の殖産興業施策の進展に尽力した。宇品港が竣工した明治22年に新潟県への転任を命じられ、その後和歌山県、愛知県、京都府、宮崎県の知事を歴任し、明治31年に退官した。明治37年からは、貴族院議員を務めた。

4 [絵葉書] 千田男爵銅像

(長船友則氏収集資料200407-1581-06)

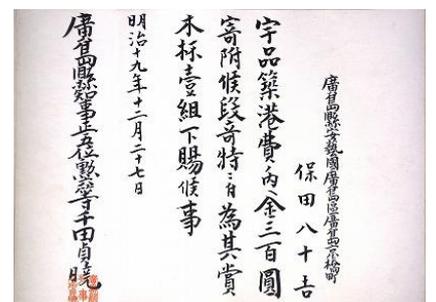


5 千田貞暁銅像 [千田廟公園 (広島市南区宇品御幸一丁目)] 令和元年(2019)9月撮影



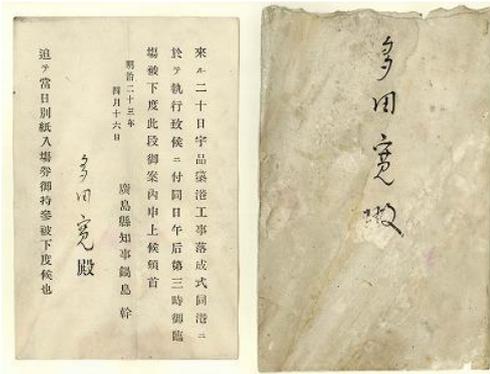
宇品築港事業については、完成当初は無用の事業との批判も多かったが、日清戦争で軍用港として重要な役割を果たしたことにより、千田貞暁の功績を称揚する声が高まった。千田貞暁は明治31年(1898)に男爵を授けられ、大正4年(1915)には宇品に銅像と記念碑が建立された。

6 宇品築港費寄付の感謝状 明治19年(1886)12月27日 (保田家文書199603-6-56)



京橋町の商家・縄屋の分家筋に当たる保田八十吉(1843~1919)は、明治時代の広島を代表する資産家で、明治19年には第百四十六国立銀行の取締役役に就任した。八十吉は、千田知事に協力して宇品築港の資金集めに奔走し、自らも300円を寄付している。この資料は、寄付に対する千田知事からの感謝状である。

7 宇品築港工事落成式案内状 明治23年(1890) 4月16日 (多田家文書201805-75)



明治23年4月20日に執行された宇品築港工事落成式の案内状。千田貞暁はこの年1月に新潟県へ転任しており、落成式は後任の鍋島知事によって執行された。招待を受けた多田寛はもと広島藩士(剣術・円明流の師範家)で、明治時代、御調郡・世羅郡長などを務めた後に北海道へ移住していた。

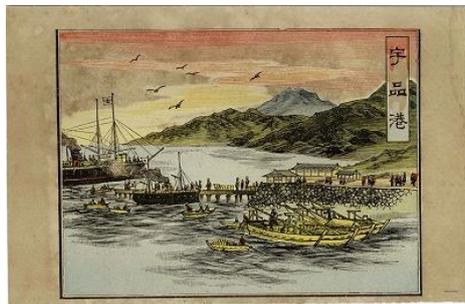
8 宇品港之真景

明治28年(1895) 8月31日
(竹島浅吉氏収集文書199510-119)



9 宇品港

(竹島浅吉氏収集文書199510-120)



10 [絵葉書] 広島宇品凱旋記念碑 がいせん
(長船友則氏収集資料200407-1462)



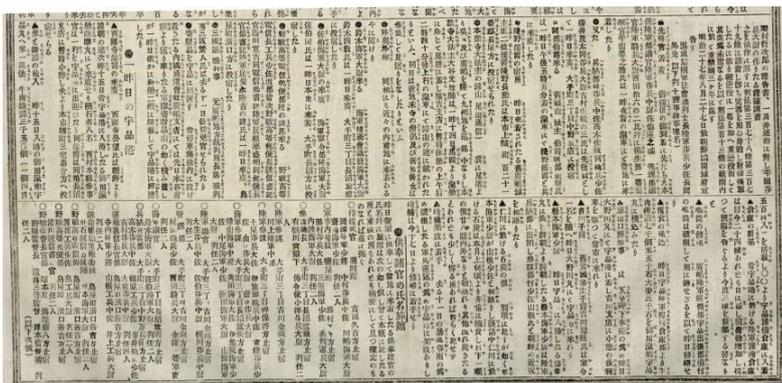
宇品港の風景を描いた版画2種。資料8は、明治28年8月31日に大阪の田井久之助が印刷発行したものである。

11 平和塔 みなみ [皆実町緑地 (広島市南区皆実町六丁目)] 令和元年(2019)9月撮影

日清戦争後の明治29年(1896)3月、広島第5師団・第9旅団の凱旋を記念して建立された碑。高さ16mで、花崗岩製の碑の上に銀製の金鶏(トビ)の像を配置している。戦後の昭和22年(1947)8月6日に「凱旋碑」の刻銘を「平和塔」に改め、現在に至っている。また、石碑の手前に位置する左側の標柱には「大手町通」、右側には「東松原停車場通」と刻まれている。当時は、宇品港から御幸通りを北上すると、この場所が分岐点になっており、左に行けば御幸橋を渡って大手町に、右に行けば比治山下を通って東松原停車場(広島駅)に至った。



12 『芸備日日新聞』 明治27年(1894) 9月16日 (檜崎修策氏収集資料201104-287-12)



日清戦争で広島に大本営が置かれた翌日の新聞。「(一)昨日の宇品港」と題する連載記事には、9月15日に西園寺公望侯爵が来広したことや、米1万俵と牛肉缶詰3,500個が宇品の倉庫に搬入されたこと、9月11日の暴風雨で破損した栈橋を17日から修繕することなどが記されており、戦時下の慌ただしい様子を伝えている。

13 「陸軍被服廠要覧」 昭和4年(1929)7月 [長船友則氏収集資料「宇品線関係資料1」(200407-3335) 所収]

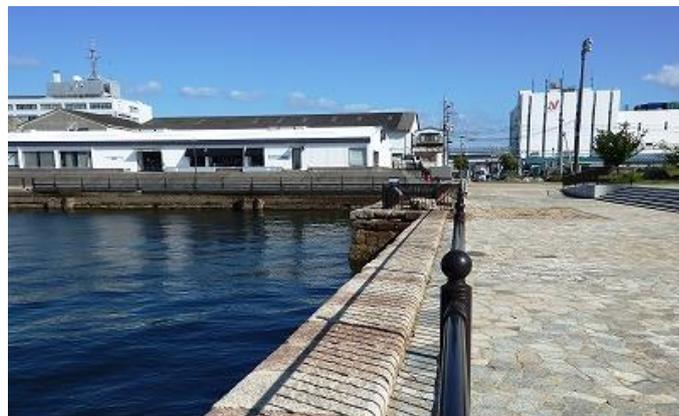
陸軍被服廠は明治19年(1886)3月11日に創設され、軍隊所要の被服の調達と分配、並びに戦用予備被服の貯蔵を業務とした。東京に本廠が設置されたが、日露戦争前の明治36年に大阪に支廠を創設。同38年には広島派出所が設置され、41年3月に支廠となった。この要覧には、広島支廠の建物(正面)、貯蔵倉庫、鉄道輸送設備等の写真が収録されている。



14 [絵葉書] 宇品陸軍運輸本部棧橋
大正12年(1923)1月
(長船友則氏収集資料200407-1203)



15 陸軍棧橋(六管棧橋)跡
[宇品波止場公園(広島市南区宇品海岸三丁目)]
令和元年(2019)9月撮影



陸軍運輸部は、明治27年(1894)の日清戦争に際して設置された陸軍通信支部を起源とする。陸軍の運輸・補給業務を担当し、^{かなわじま}金輪島工場と^{にのしま}似島検疫所を所管した。陸軍運輸部前から南に延びる棧橋は、明治35年に軍用棧橋として整備されたもので、昭和20年(1945)の終戦まで陸軍の輸送拠点として利用された。戦後は、第六管区海上保安本部の船舶の係留に利用されたことから、六管棧橋と称された。現在は、周辺一帯が宇品波止場公園として整備され、旧陸軍時代の棧橋遺構の一部が保存されている。

16 [絵葉書] 広島市宇品海岸通(長船友則氏収集資料200407-1582-2)



宇品海岸通を行軍する兵士の写真で、これから戦地に赴くところと推定される。撮影年代は不明だが、この絵葉書は住所・宛名面の印刷様式の特徴から、大正7年(1918)から昭和7年(1932)までの間に発行されたことが分かるので、その頃に撮影された写真とみられる。

17 広島港から出征する兵士 昭和12年(1937)8月1日
(『広島県史』近代2 掲載写真)

広島港から日中戦争に出征する歩兵第11連隊の兵士。写真の右奥に、小旗を振って見送る市民たちの姿も写っている。対岸に見える山は宇品島である。



18 広島市街明細地図(部分) 明治20年(1887)9月
(長船友則氏収集資料200407-820)



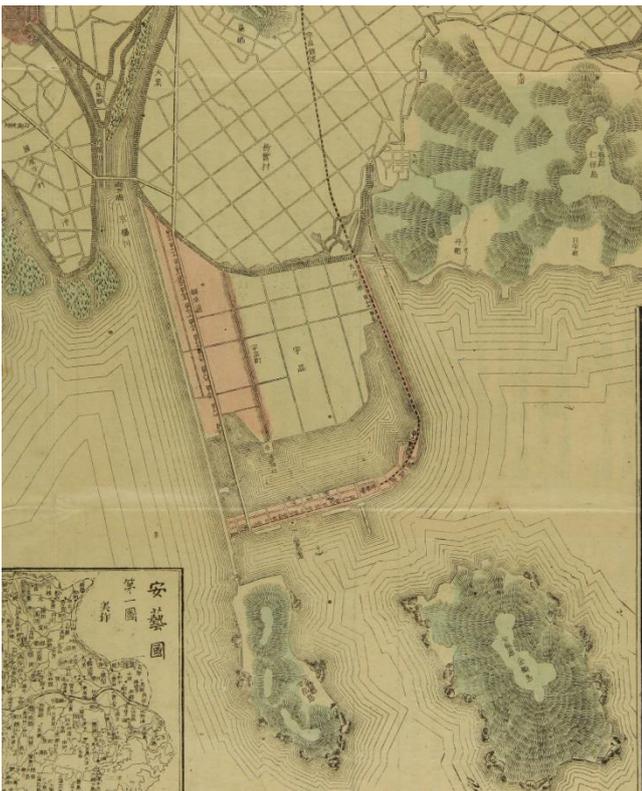
宇品築港途中の状況。新開地と宇品島がまだつながっていない。

19 広島市街明細地図 改正増補(部分)
明治24年(1891)12月
(長船友則氏収集資料200407-821)



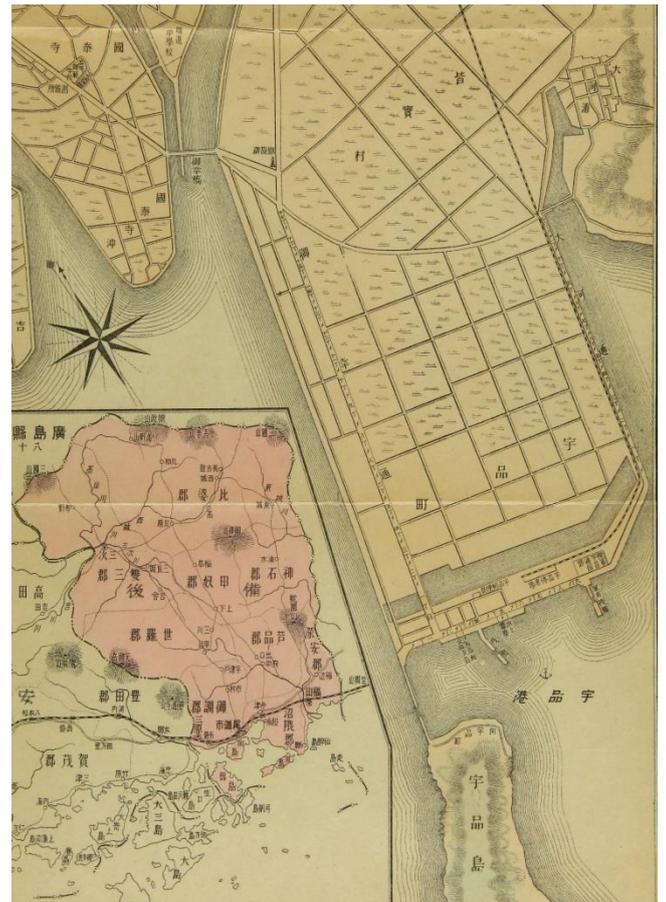
宇品築港後の状況。新開地と宇品島が接続し、港の東側に棧橋が築かれている。

20 実測最新広島市街地図(部分) 明治27年(1894)8月
(長船友則氏収集資料200407-823)



日清戦争開戦時の状況。8月20日に広島駅と宇品港を結ぶ仮設軍用鉄道(のちの宇品線)が開通した。

21 広島市街地図(部分) 明治35年(1902)8月
(長船友則氏収集資料200407-826)



明治28年(1895)4月、港の東側が軍用港に位置付けられ、従来の棧橋が軍用棧橋になったため、通常旅客用の新しい棧橋(商用棧橋)が港の西側に設けられた。その後明治33年8月の台風被害を受けて、大規模な改修工事が行われた。

22 [絵葉書] 広島市宇品港棧橋
(長船友則氏収集資料200407-1275)

資料22は、大正7年(1918)から昭和7年(1932)までの間に発行された絵葉書で、南西の宇品島側から北東に向かって商用棧橋を写したものである。棧橋の先端には、大型の旅客船が泊まっている。

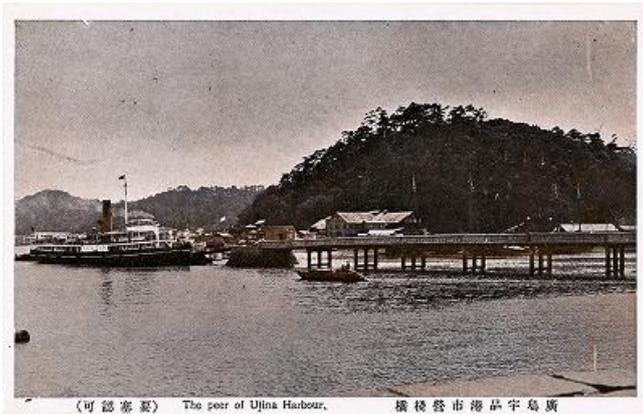


23 旧広島水上警察署 [旧広島港湾事務所
(広島市南区宇品海岸二丁目)]
令和元年(2019)9月撮影



中央に見える建物は広島水上警察署で、明治42年(1909)の建設。この建物は、昭和40年(1965)から広島港湾事務所の事務室、倉庫として利用されたが、平成22年(2010)以降は使用されていない。明治時代の木造洋風建築として、広島市内に現存する唯一の建造物であり、被爆建物としても貴重である。

24 [絵葉書] 広島宇品港市営棧橋
(長船友則氏収集資料200407-1270)



25 広島市営棧橋 (広島市南区宇品海岸二丁目)
令和元年(2019)9月撮影



資料24は、資料22と同時期に発行された絵葉書で、商用棧橋を北東から南西の宇品島側に向かって写したものである。当初、商用棧橋は、千田知事が明治21年(1888)に設立した棧橋会社が運営していたが、大正9年(1920)に広島市が買収し、市営棧橋として現在に至っている。

26 [絵葉書] 宇品港棧橋
(長船友則氏収集資料200407-1263)



27 [絵葉書] 広島宇品港棧橋 大正5年(1916)5月
(長船友則氏収集資料200407-1582-5)



商用棧橋を北西側から南東側に向かって写したもの。資料26と資料27は同じ写真を使用しているが、明治40年(1907)から大正6年(1917)までの間に発行された資料26には背景の金輪島の山なみが写っている。一方、大正5年5月に広島湾要塞司令部の検閲を受けた資料27は、軍事機密として背景が消去されている。

28 [繪葉書] 宇品海岸通
(長船友則氏収集資料200407-1170)



29 [繪葉書] (宇品名所) 御幸通一丁目
(長船友則氏収集資料200407-1169)



30 [繪葉書] 宇品港メガネ橋景
(長船友則氏収集資料200407-1581-7)



31 [繪葉書] 宇品山観音堂
(長船友則氏収集資料200407-1581-5)



32 [繪葉書] 島宇品海水浴場海岸景
(長船友則氏収集資料200407-1581-3)



33 [繪葉書] 似ノ島陸軍検疫所 上陸棧橋
(長船友則氏収集資料200407-1527)



34 [繪葉書] 凱旋館全景
(長船友則氏収集資料200407-1626-2)



35 [繪葉書] (宇品名所) 新道路
(長船友則氏収集資料200407-1168)



II 商業港と工業港の建設

宇品港は、日清戦争以後、軍用港として重要な役割を果たしていたが、第1次世界大戦以降の産業経済の発展により、商業利用への期待が高まった。

広島県は大正13年(1924)から宇品港の改修を検討し、従来の港の西側に商業港を建設することになった。昭和7年(1932)には港域を拡大して広島港と改称、翌8年から商業港の修築工事が始まった。

これに合わせて、工業港の建設が計画された。当初は、元安川河口以東、草津町沖までの海面約132万坪を埋め立て、企業を誘致して大工業地帯を建設する計画だったが、戦時体制に即応するため、面積を約99万坪に縮小、工期も10年から3年に短縮した。

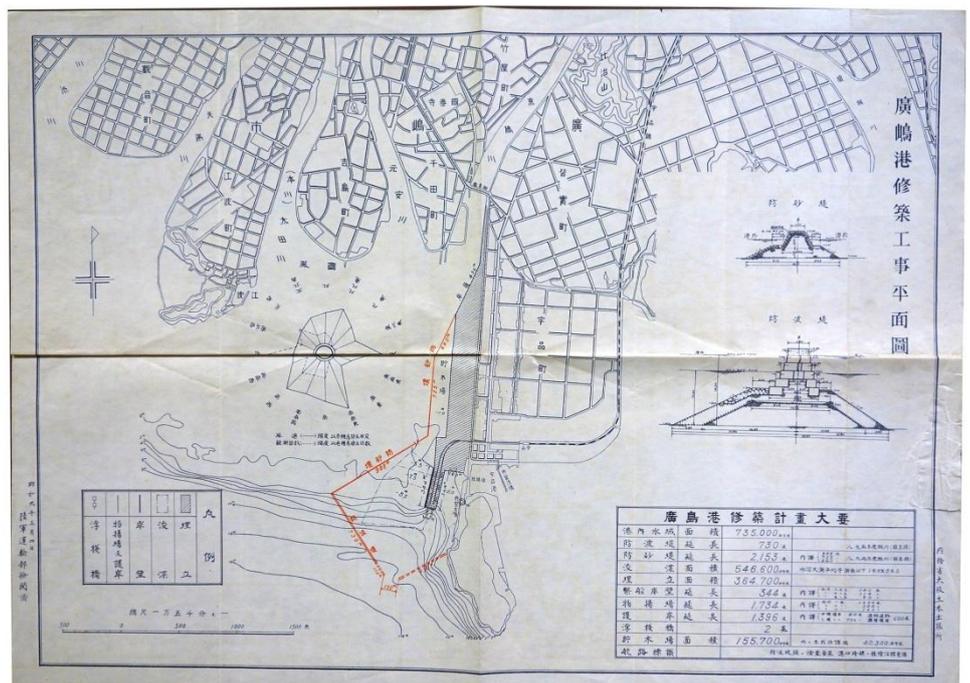
昭和15年から吉島町沖(第2区)、江波町沖(第3・4区)、観音町沖(第5区)の工事が進められたが、第2区は陸軍の飛行場に転用、第3区は中止になった。第4・5区には、三菱重工業の造船・造機工場が建設されることになったが、海軍の要請によって、埋立工事と並行して工場の建設が始まり、昭和18年12月に操業開始、翌19年6月には最初の進水式が行われた。

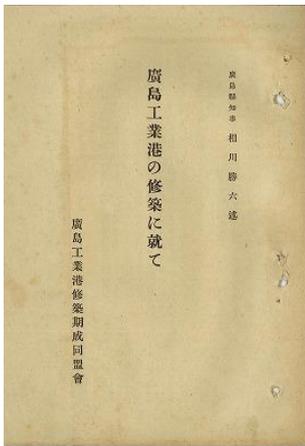
36 宇品港の開港場指定を要望する意見書 大正14年(1925)12月25日 「大正十四年通常広島県会議決録」(広島県議会文書S03-93-124) 所収]

宇品港は軍用港として特殊な役割を果たしてきたため、開港場(海外貿易港)に指定されておらず、商業利用の妨げになっていた。この意見書は、大正14年(1925)12月25日に望月乙也広島県会議長の名で若槻礼次郎内務大臣に宛てたもので、宇品港を開港場に指定して各種の制限を撤廃すれば、輸出入額の更なる増加が見込めると述べている。

37 広島港修築工事平面図 内務省大阪土木出張所 昭和9年(1934)5月4日検閲 [長船友則氏収集資料「宇品線関係資料1」(200407-3335) 所収]

商業港の修築工事は、内務省による国家代行業業として実施されることになり、昭和8年(1933)6月14日に起工した。この平面図は、工事を担当した内務省大阪土木出張所が作成したもので、修築計画の概要を知ることができる。この工事は、その後の計画変更を経て、当初予定から7年遅れの昭和20年11月に完成した。



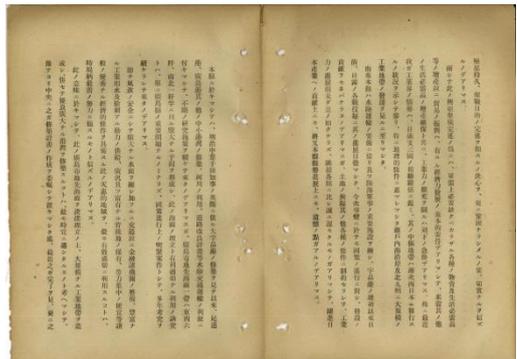


38 広島工業港の修築に就て 広島工業港修築期成同盟会
昭和15年(1940)6月 (行政文書S01-90-57所収)

昭和15年(1940)6月5日、相川勝六広島県知事は、広島中央放送局からラジオ演説を行い、工業港建設の必要性和将来性を訴えた。この資料は、その演説の内容を印刷したパンフレットで、広島工業港修築期成同盟会から県民に配布して、事業への理解と協力を求めたものである。

39 臨時広島県会提出議案ニ関スル相川知事説明要旨 昭和15年(1940)6月 (行政文書S01-90-57所収)

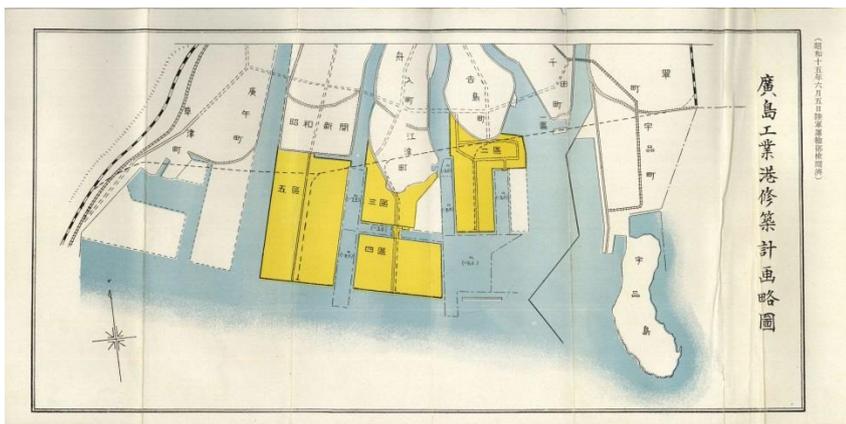
昭和15年(1940)6月6日、工業港建設の予算案等を審議するため、3日間の日程で臨時広島県会が招集された。予算は特別会計とし、総事業費1,970万円、昭和15年度以降4ヶ年度の継続事業として提案された。事業収入の大半は埋立地の売却代金を見込み、不足額は県債発行で補うこととされた。この議案は、「県会史上稀に見るなごやかなる雰^う囂^ちの裡に、満場一致総起立^{もつ}を以て」議決されたという。



40 広島工業港(県営)修築計画説明書/広島工業港修築計画略図 昭和15年(1940) (行政文書S01-90-57所収)

広島県は、港湾協会が作成した原案をもとにして、昭和15年(1940)に工業港の修築計画を策定した。工業港の利点は、本船を工場に横付けし原料を直接搬入することによって、中間の荷役賃・運賃が大幅に削減されることにあった。

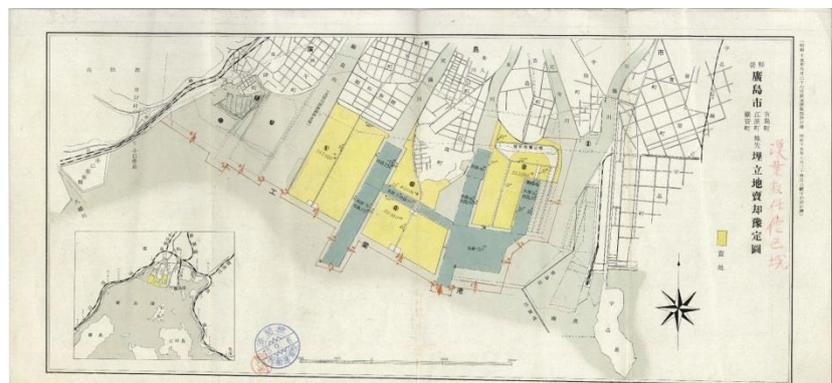
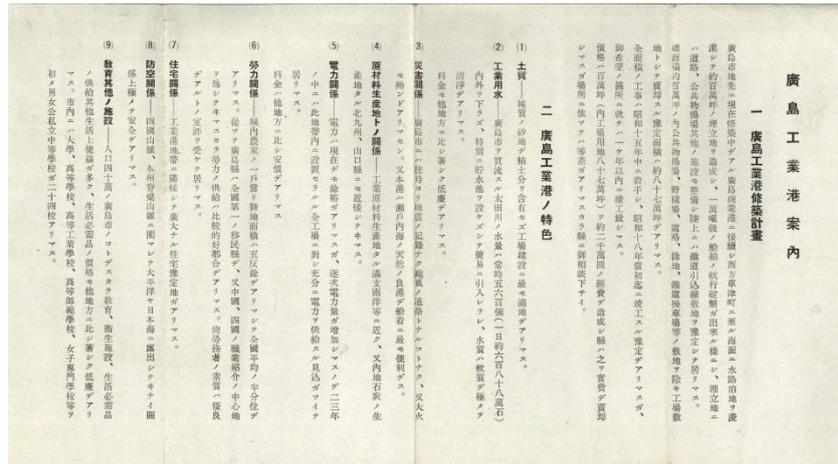
当初計画では、工区が8区に分けられたが、このうち吉島町地先の2区、江波町地先の3・4区、昭和新開(観音町)地先の5区を県営事業として施工することになった。なお、千田町地先の1区と、市営事業として計画された庚午町・草津町地先の6~8区は中止となった。



41 広島工業港案内／県営広島市吉島町江波町観音町地先埋立地売却予定図 昭和15年(1940)

(行政文書S01-2007-921所収)

広島県が工業港の埋立地に企業を誘致するために作成したパンフレット。工業港の特色として、①土質が工場建設に適している、②工業用水が豊富で料金が安い、③自然災害が少ない、④工業原料の産地に近い、⑤電力の十分な供給が可能で安価、⑥労力の確保が容易で労働者の素質も優良、⑦工業港に隣接する広大な住宅予定地がある、⑧防空上も安全、⑨教育環境が整い物価が安い、という利点をあげてPRしている。また、埋立地売却予定図には、朱筆で漁業権保償(補償)区域が記入されている。



42 広島工業港関係漁業権補償問題ニ対スル交渉経過 昭和15年(1940) 6月 (行政文書S01-90-59所収)

広島工業港の事業を遂行する上で最も難航が予想されたのが漁業補償問題だった。埋立の影響を受ける漁場は約600万坪で、約2,600戸の漁業者が転業を強いられることになったが、相川県知事自らが説得にあたるなどの交渉が功を奏し、昭和15年9月に補償金総額約434万円によって解決した。



43 広島工業港魚介藻類慰霊碑

[江波山公園 (広島市中区江波二本松二丁目)]
平成20年(2008)12月撮影

昭和15年(1940)9月21日、埋立工事のために生命を絶たれる魚介藻類の慰霊法要が、広島別院において開催され、^{ひのき}檜柱の慰霊塔が江波山に建立された。その慰霊塔を戦後に建て替えたのが写真の慰霊碑で、裏面には慰霊法要の際の相川県知事の式辞(抜粋)が刻まれている。

44 広島工業港工程表 港湾課 昭和15~17年(1940~42) (行政文書S01-90-60)

昭和15年12月から17年3月までの各月末における、埋立工事の進捗状況に関する報告書の綴り。工事は当初の1,2年は順調に進捗したが、昭和16年12月の太平洋戦争開戦以降、戦局の悪化に伴う資材や労力の不足により、次第に遅延するようになった。竣工は、当初予定の昭和18年3月から大幅にずれ込み、戦後の同22年3月となった。

III 戦後の広島港

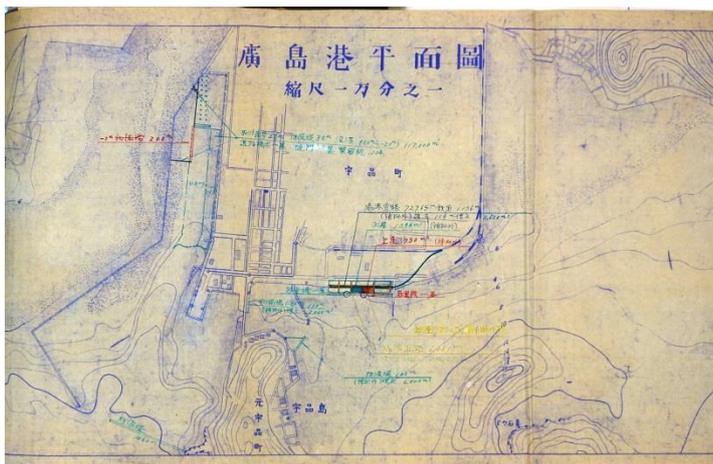
終戦によって軍用港としての役割を終えた広島港は、昭和23年(1948)に開港指定を受け、貿易港としての発展を期待された。昭和26年に着任した大原博夫^{ひろお}県知事は生産県構想を策定し、その第二次計画では、重要施策の第一に臨海工業地帯の造成を掲げた。県は昭和34年に広島港の新規港湾計画を策定し、港域の埋立工事を実施。東港区A地区(宇品東)とB地区(仁保)は主に東洋工業(現マツダ)の工場用地として、西港区(出島)は中小企業団地として分譲された。

戦前に多くの軍用施設が立地した宇品周辺地域も大きく変貌した。宇品線は、沿線に県庁などの官公庁や学校が集中し、通勤通学用路線として重要な役割を果たしたが、官公庁の都心部への移転等によって利用客が減少し、昭和47年4月に旅客営業が廃止された。

広島県は昭和44年、大規模流通拠点港湾を目指して広島港の港湾計画を改定し、翌45年には廿日市港区を港域に編入した。廿日市には木材港が整備され、出島沖のフェリーふ頭建設や、海田湾の埋立工事を実施。五日市地区等の港湾整備も進めて、機能分担を図った。

45 港湾事業計画一件 港湾課 昭和29～31年 (1954～56) (行政文書S01-90-341)

昭和26年(1951)1月19日、広島港は重要港湾に指定され、同28年には広島県が港湾管理者になった。この簿冊は、当時の港湾事業計画に関する文書を綴ったもので、「広島県港湾修築及維持工事調」(昭和28年2月1日調)には、広島港の昭和28～32年度の港湾改修事業計画書が含まれている。この平面図は、その改修予定箇所を図示したものである。



46 『広島港要覧 1956年版』 広島県広島港事務所 昭和32年(1957)3月発行 (行政資料7030-3345)

昭和30年度を中心とした広島港の港勢を明らかにし、港湾の開発利用及び管理に資することを目的として編纂した要覧。広島港の沿革と将来をまとめた総説や、港湾施設の状況、入港船舶・乗降人員数・輸出入額等の諸統計が掲載されている。



47 [絵葉書] 生れ変わった宇品港 (長船友則氏収集資料200407-1584-4)

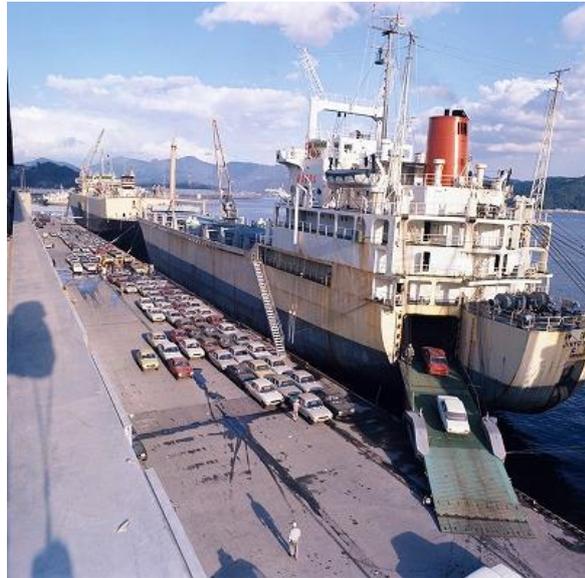
財団法人日本交通公社広島案内所が発行した「平和の都 復興広島」と題する6枚組の絵葉書のうちの1枚で、昭和20年代の写真とみられる。解説には英文が併記されている。

48 広島港1万トンバース

昭和46年(1971)10月26日

[行政文書(広報写真) S05-2002-15-5-1]

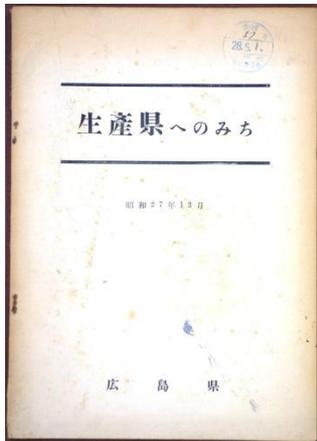
戦後の経済復興の中で商業港としての機能を充実させるため、運輸省第三港湾建設局は1万トン級の大型船舶が接岸可能な岸壁(宇品外貿ふ頭, 1万トンバース)を築造した。昭和28年(1953)に着工し、同35年に第1バース, 38年に第2バースが完成。昭和45年までに4バースが築造された。写真は、昭和46年10月26日に撮影されたもの。



49 『生産県へのみち』 広島県

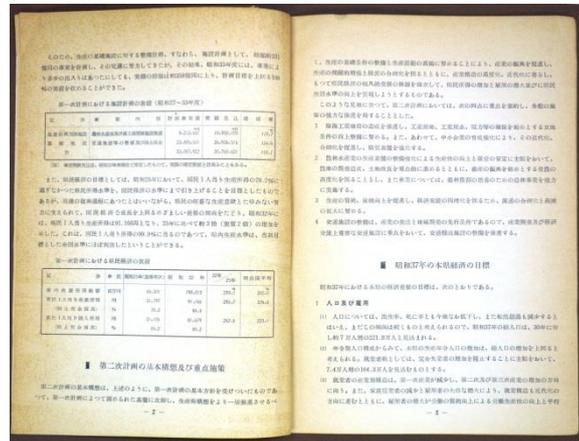
昭和27年(1952)12月

(甲斐英男氏収集文書198907-358)



50 『生産県構想第二次計画(要約)』 広島県

昭和34年(1959) (甲斐英男氏収集文書198907-360)



『生産県へのみち』は、大原博夫県知事の生産県構想を具体化して公表した資料。「消費県から生産県へ」を旗印として、一人当たりの県民所得を全国水準に引き上げることを目指した。その目標を達成した昭和34年(1959)3月には第2次計画を策定し、(1)臨海工業地帯の造成、(2)農林水産業の生産基盤の整備強化、(3)流通の合理化と商圈の拡大、(4)交通施設の整備を重点施策とした。第1次計画は(2)が中心だったが、第2次計画では(1)を前面に掲げているのが特徴である。

51 広島港東部臨海工業地帯

『『のびゆく広島県' 69』 広島県

(行政資料2010-2010-1422) 所収]

広島港東港区B地区(仁保沖)の埋立地には、東洋工業の自動車組立工場が進出した。写真は昭和44年(1969)頃の状況。



52 広島港出島地区 航空写真
 [行政文書 (広報写真) S05-2002-838]



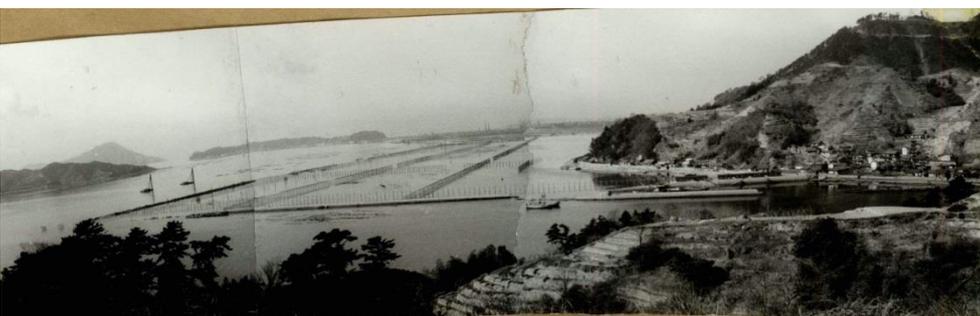
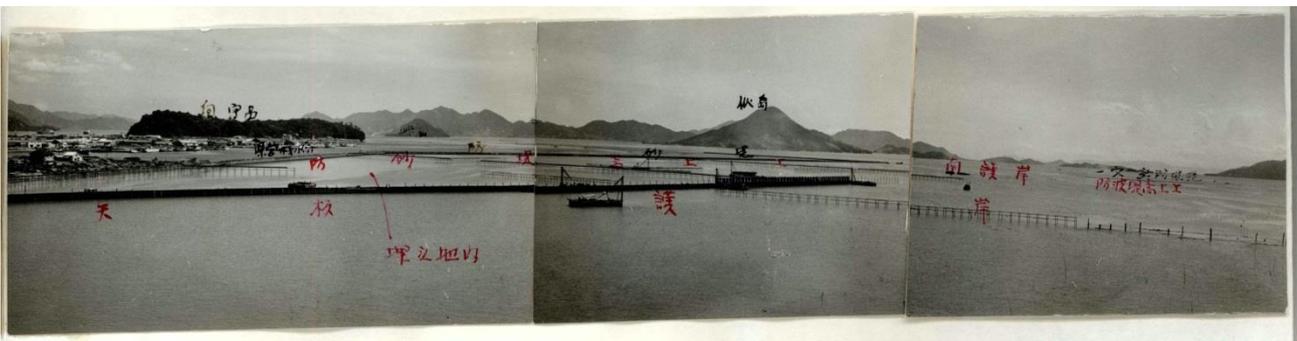
広島港西港区(出島)の埋立地には、木材団地が形成された。対岸の吉島に貯木場が見える。

53 広島港特別整備事業東部地区土地造成工事(東工区)の起工並びに執行について
 昭和36年(1961)3月18日決裁
 (行政文書S01-93-19所収)



広島港東港区B地区(仁保沖)の埋立工事について、広島港事務所長の起工・執行伺いを承認した文書で、大原県知事が決裁している。

54 広島港西港(区)埋立工事写真 開発課 昭和38(1963)年度 (行政文書S01-93-694所収)

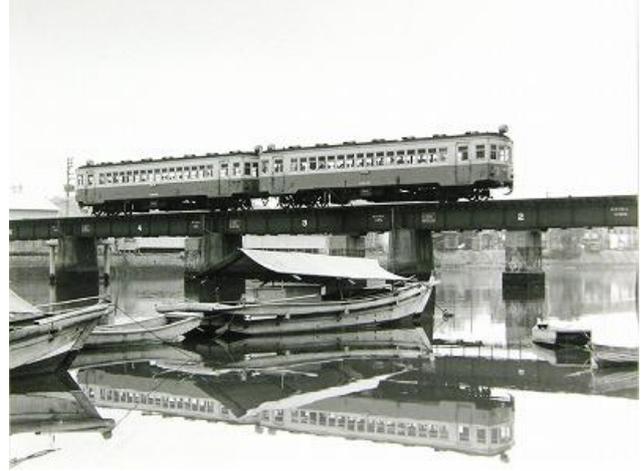


【上の2枚】
 西港区(出島)
 【左】東港区(仁保)

55 宇品線 広島駅 0 番線に到着した宇品線列車
昭和42年(1967)7月29日



56 宇品線 大須口～南段原間にて 左からキハ
04104+キハ04106 昭和41年(1966)6月11日



57 宇品線 ^{かみおおこう} 上大河駅 昭和41年(1966)3月26日



58 宇品線 ^{しもおおこう} 上大河～^{でしお} 下大河間 (出汐踏切) にて
541D 昭和41年(1966)11月26日



59 宇品線 宇品駅 昭和41年(1966)10月22日



60 宇品線 宇品駅にて 最終列車お別れ式
昭和41年(1966)12月19日



※ 資料55～60の写真撮影者は長船友則氏で、い
ずれも長船友則氏収集資料「思い出の宇品線」
(200407-613) 所収。

広島～宇品間の一般旅客営業・貨物営業は廃止され
たが、その後も昭和47年(1972)3月31日まで、広島～上
大河間で通勤通学定期客専用列車が運行された。

61 広島・上大河間通勤通学専用列車発車時刻表
 昭和41年(1966)12月20日改正
 [長船友則氏収集資料「宇品線関係資料 1」]

下り				上り					
駅名	広島	南段原	上大河	記事	駅名	上大河	南段原	広島	記事
521	7:50	7:56	7:58	日曜祝日 運休	522	8:02	—	8:08	日曜祝日 運休
523	8:12	8:18	8:20	日曜祝日 運休	524	8:26	—	8:32	日曜祝日 運休
525	8:36	8:41	8:43	—	526	8:53	—	9:00	—
527	13:00	—	13:06	土曜日	528	13:11	13:15	13:20	土曜日
529	16:03	—	16:09	土曜日	530	16:14	16:18	16:23	土曜日
531	16:48	—	16:54	—	532	16:59	17:03	17:08	—

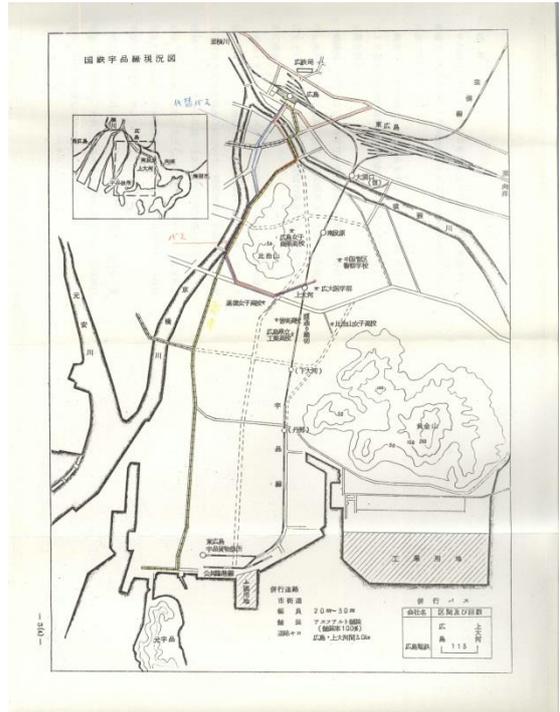
(注) 527・528列車は、土曜日が祝日の場合運転休止となります。
 通勤・通学定期乗券所持者のみ以外は、乗車できません。

国鉄中国支社

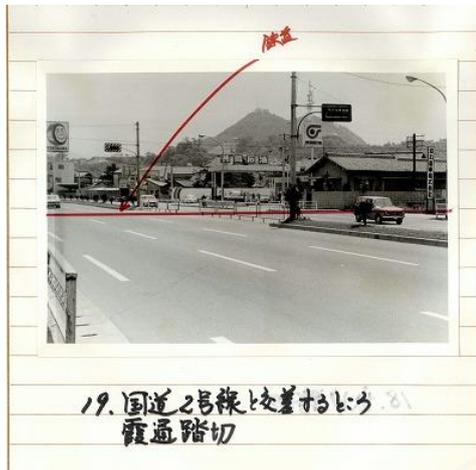
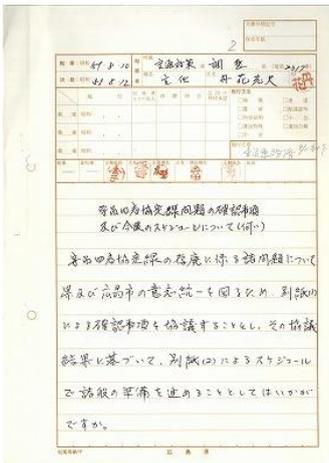
昭和41年(1966)12月20日から運行された、広島～上大河間の通勤通学定期客専用列車の発車時刻表。

昭和43年(1968)9月、広島鉄道管理局は国鉄諮問委員会から、宇品線を廃止対象線区として、できるだけ早い機会に道路輸送に転換するよう勧告を受けた。これを受けて、昭和45年12月に宇品線問題協議会が設置され、宇品線の存廃について関係機関と協議が行われた。生徒約1,900人が宇品線を利用していた沿線の高等学校5校から通学列車存置の陳情が出されたが、バスの増便等に対応することになり、昭和47年4月1日に旅客営業を廃止、宇品線の名称は消えた。

62 鉄道整備促進(宇品線1) 交通対策課
 昭和46～51(1971～76)年度
 (行政文書S01-2009-433)



63 鉄道整備促進(宇品線) 地域振興課 昭和51～53(1976～78)年度 (行政文書S01-2008-1586)



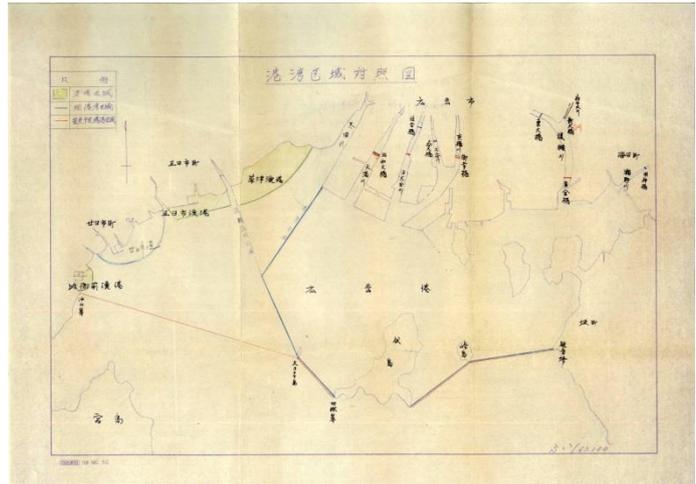
旅客営業廃止後も、この路線は「宇品四者協定線」として、運送業者四者の運営による東広島駅(広島駅東側の貨物駅)～宇品貨物取扱所間の貨物専用線として利用された。しかし、取扱貨物の減少や、たんな丹那～宇品間の国有地の借地料負担によって年々収支が悪化し、昭和61年(1986)10月1日に廃止、旧宇品線は日清戦争以来92年の歴史を閉じた。



64 宇品線のモニュメント
 [宇品波止場公園(広島市南区宇品海岸三丁目)]
 令和元年9月撮影

65 港湾管理（広島港区域変更） 港湾課 昭和44～45（1969～70）年度（行政文書S01-2003-886）

昭和44～45年度における広島港の港湾区域変更に関する文書の綴り。このとき港湾区域が西に拡張され、廿日市港区までが広島港に編入された（漁港法で指定された草津・五日市・地御前漁港を除く）。昭和44年（1969）6月9日、港湾区域の変更について県議会の議決を求め、^{いづお}永野巖雄県知事が決裁した文書等が含まれている。



66 廿日市木材港 航空写真 昭和55年（1980）
[行政文書（広報写真）S05-2002-632]

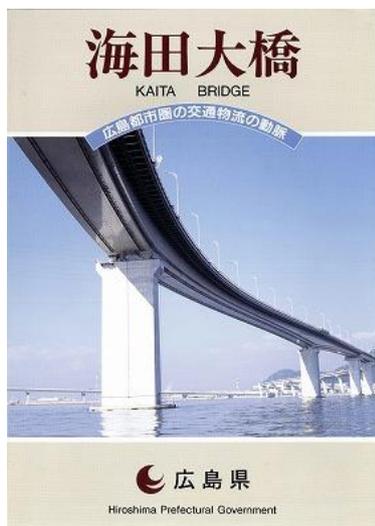


昭和42年（1967）、広島港の木材輸入は100万^{にさば}m³を超え、荷捌きや貯木に大きな支障が出ていた。そのため、加工や出荷も含めて一貫した作業ができる木材港の建設が切望され、交通の便のよい廿日市沖に建設することになった。昭和45年から工事に着手し、同53年に開港した。

67 海田コンテナヤード 昭和62年（1987）3月
[行政文書（広報写真）S05-2002-23-53]



広島県は昭和44年（1969）に海田湾利用計画を策定し、埋立てによる東部流通団地の整備を計画した。当時県は、廿日市木材港の整備等に着手していたため、海田湾の事業は民間資金の導入によって進めることにした。不況による進出企業の辞退や反対運動等によって事業は難航したが、昭和53年に着工、同61年に完成した。写真は、海田湾に整備されたコンテナヤード。

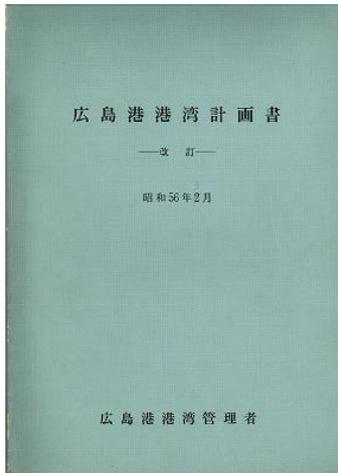


68 「海田大橋 広島都市圏の交通物流の動脈」 広島県
（行政資料7030-2004-1849）

海田大橋は、広島港東部の港湾貨物の円滑な流通と背後の都市交通の緩和を図るため、昭和56年（1981）の広島港港湾計画に位置付けられ、同58年10月に着工。410億円の費用をかけて、平成2年（1990）12月に完成した。

69 『広島港港湾計画—改訂—』

広島港港湾管理者 昭和56年(1981) 2月
(行政資料7030-2006-675)



昭和44年(1969)の広島港港湾計画を12年ぶりに改訂した計画書。増加する貨物量に対応し、物流システムの円滑化を図るために、港湾施設を整備拡充し、ふ頭相互をつなぐ臨海道路などの整備を目指した。

70 『県政の窓』No.189 (親しまれる港づくり—

広島港港湾計画—) 広島県 昭和56年(1981) 8月
(行政資料7030-2576)



昭和56年(1981)年に改訂した広島港港湾計画の具体的な内容を県民向けに分かりやすく解説した広報誌。10年先を目標とするこの港湾計画では、港湾機能を輸出・輸入・国内流通・旅客の4つに分け、輸出は宇品、輸入は五日市・廿日市、国内流通は出島沖・五日市、旅客は宇品というように各地区の機能分担を図るとともに、それらを湾岸道路で結ぶことを構想している。

71 五日市沖埋立て 航空写真 平成7年(1995)

[行政文書(広報写真) S05-2008-8-9]



五日市地区港湾整備事業は、流通拠点港湾の整備、港湾環境の整備(野鳥園・人工干潟の造成等)、住居環境の整備、都市基盤施設の整備(臨港道路廿日市草津線等)、廃棄物処理場の整備を目的として、昭和62年(1987)に着工、平成29年(2017)に概成した。

72 広島港(宇品) 航空写真 平成5年(1993)

[行政文書(広報写真) S05-2008-6-9]



21世紀に向けて整備が進む広島港宇品地区。写真左下に見える出島と宇品との間の内港は、埋立工事が始まっている。

IV 21世紀の広島港

広島港は、広島経済圏の海の玄関として、広島の発展に重要な役割を果たしてきたが、21世紀に向けて、国際化や周辺部の都市問題等に対応した新たな港づくりが求められるようになった。このため、昭和61年(1986)に運輸省、広島県、広島市、学識経験者等で構成される広島ポートルネッサンス21調査委員会を設置し、宇品内港・出島地区の開発計画を策定した。

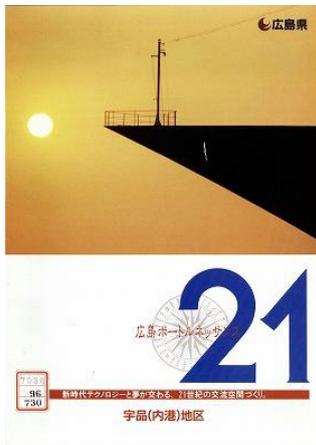
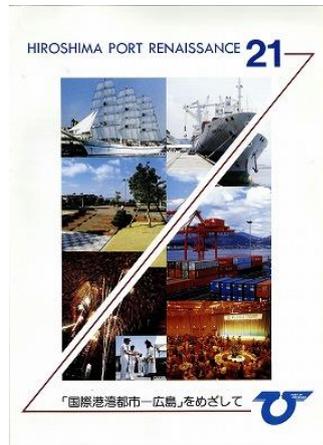
この計画を実現するため、平成元年(1989)に広島港港湾計画を改訂し、同4年から宇品内港地区、同8年から出島地区の整備事業に着手した。また、廿日市、五日市、坂地区等の港湾整備も引き続き推進した。

広島県は、平成30年9月に広島港長期構想を策定し、30年先に目指すべき将来像やその実現に向けた空間利用計画、施策などを提示した。この構想を踏まえて、平成31年3月には港湾計画を改訂し、「瀬戸内海を牽引するグローバルゲート 広島港」の実現を目指すことになった。

73 『広島ポートルネッサンス21』 広島県 昭和62年(1987)3月 (行政資料7030-2006-651)

「広島港は21世紀に向けていかにあるべきか」を検討するため、昭和61年(1986)に広島ポートルネッサンス21調査委員会が設置された。この調査は、宇品内港・出島地区において、物流、生産、情報、レクリエーション、文化などの機能をバランスよく配置し、全体として高度な機能を発揮させるための空間整備計画について検討を行ったものである。

74~76 広島ポートルネッサンス21のパフレット (行政資料7030-94-1308, 7030-96-730・729)



広島ポートルネッサンス21計画では、「広島の玄関口にふさわしい国際港湾都市の建設」を開発の目標とした。

宇品内港地区は、北側を都市開発ゾーンとして、高層住宅・学校・商業施設等を配置し、南側はフェリー・旅客船ターミナルゾーンとした。また、出島地区は国際交流ゾーンとして、外貨コンテナふ頭、国際旅客船ふ頭、メッセコンベンション施設等の整備を計画した。

77 『広島港案内 (2003)』 広島県 平成15年(2003) (行政資料7030-2006-1665)

表紙は、広島ポートルネッサンス21事業で整備が進む宇品内港・出島地区の航空写真を背景とし、明治29年(1896)に活気あふれる宇品港の様子をうたうた国民唱歌に指定された「みなとの唄」を紹介している。



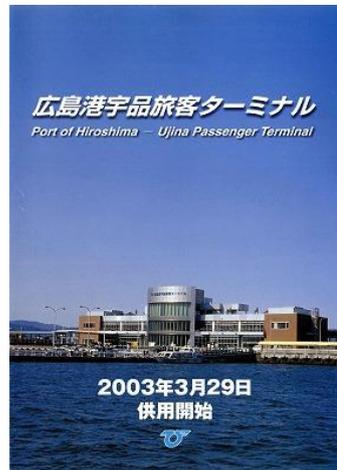
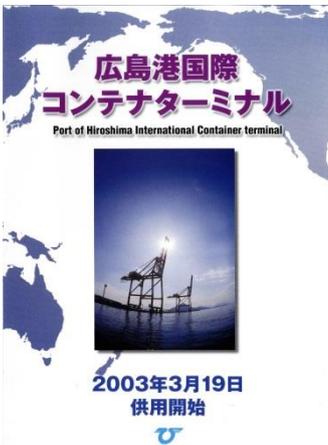
78 観音マリーナ 航空写真 平成13年(2001)
[行政文書(広報写真) S05-2008-12-49]



79 広島はつかいち大橋 航空写真 平成13年(2001)
[行政文書(広報写真) S05-2008-12-47]



80~82 供用開始された広島港各施設のパンフレット
(行政資料7030-2010-297, 7030-2009-1648・1647)



関係略年表

明治 13 年(1880)	千田貞暁, 広島県令に就任
22 年(1889)	宇品築港事業竣工
27 年(1894)	日清戦争, 広島-宇品間に仮設軍用鉄道敷設
28 年(1895)	宇品港の東側が軍用港になる。
昭和 7 年(1932)	港域を拡大し, 宇品港を広島港に改称
8 年(1933)	第二種重要港湾に指定, 商業港修築に着手
15 年(1940)	工業港の建設に着手
23 年(1948)	貿易港として開港指定
26 年(1951)	重要港湾に指定
28 年(1953)	広島県が港湾管理者になる。宇品外貿ふ頭(1万トンバース)の改修に着手
33 年(1958)	東港区の埋込に着手
36 年(1961)	西港区の埋込に着手
39 年(1964)	宇品県営棧橋旅客施設事業に着手
45 年(1970)	廿日市港区を港域に編入, 木材港整備に着手
47 年(1972)	国鉄宇品線の旅客営業廃止
49 年(1974)	出島フェリーふ頭の整備に着手
53 年(1978)	海田湾整備事業に着手
62 年(1987)	五日市港湾整備事業に着手
平成 3 年(1990)	観音マリーナ整備事業に着手
4 年(1992)	特定重要港湾に指定, 広島ポートルネッサンス 21 事業に着手
13 年(2001)	広島はつかいち大橋供用開始
15 年(2003)	広島港国際コンテナターミナル・宇品旅客ターミナル供用開始
30 年(2018)	広島港長期構想を策定

83 『広島港長期構想』

84 『広島港港湾計画改訂(概要版)』

(行政資料7030-2018-563, 7030-2019-548)

広島県は、平成30年(2018)9月に『広島港長期構想』を策定し、広島港の30年後の将来像として、物流・産業面では「地域産業の持続的発展やアジア諸国等との交易拡大を支援する国際物流拠点」を、人流・賑わい面では「瀬戸内海と世界とをつなぐ国際交流拠点」を、安全・安心面では「防災性・安全性が高く環境と共生する港」を目指すことになった。築港130周年を迎えた平成31年(2019)3月、この長期構想を踏まえて、広島港港湾計画が改訂された。

広島県立文書館 令和元年度第2回収蔵文書の紹介展
築港130周年 — 広島港のあゆみ
発行日 令和元年(2019)10月7日
編集・発行 広島県立文書館(担当 荒木 清二)
〒730-0052 広島市中区千田町三丁目7-47
TEL: 082-245-8444 FAX: 082-245-4541
E-mail: monjokan@pref.hiroshima.lg.jp

【主要参考文献】

- ・『千田知事と宇品港』 広島県 昭和15年(1940)
- ・『宇品築港物語』 竹島浅吉著 平成7年(1995)
- ・『戦後50年広島県政のあゆみ』 広島県 平成8年(1996)
- ・収蔵文書展図録『開発の時代 広島県行政文書 1955-1975』 広島県立文書館 平成20年(2008)
- ・『宇品線92年の軌跡』 長船友則著(株)ネコ・パブリッシング 平成24年(2012)
- ・収蔵文書の紹介展図録『広島県の歴史的風景—文書館収蔵の絵葉書から—』 平成29年(2017)
- ・特別展図録『宇品港』 広島市郷土資料館 平成30年(2018)